



前田 忠昭

東京ガス
アドバイザー



ガスマレーシア社創立25周年



銅鑼を一発たたいて上場が決まった



GM社設立メンバーで20周年を祝う

「トゥルルル」とポケットの携帯電話が鳴った。クアラルンプールのホテルを出発して郊外のカスマレーシア本社（GM社／東京ガスと現地資本との合併会社）に向かう車中でのことだ。アクセントの強い英語が飛び込み、「えっ？」と聞き返すと、電話は国営石油ペトロナス社の代表からだった。今朝は、これから取締役会に出席する。そこでの議題に「反対してほしい」という内容だった。

この取締役会ではもめることが多かった。私自身も何度も提案に反対した。例えば、筆頭株主所有の大学に多額の寄付を行

うなどの問題案件も忍び込んでいるからだ。株式上場の時も、方法論を巡って大いにもめた。キャピタルゲイン課税がないなど、わが国との税制の違いが原因だった。

左の写真は、10回以上の取締役会でようやく結論を得て上場した時のスナップである。証券取引所のステージで鐘を鳴らすのかと思いきや、大きな銅鑼をドーンと一発たたくのだ。お国柄が出ていて面白かった。

マレーシアの制度はわが国より合理的だと思うことがある。例えば、上場企業の実務取締役は認定機関による3日間の証券取引所ルール

やコンプライアンスの教育を受ける必要がある。受講せよと言われて「君たちにコンプライアンスなんて言われたくないよ!」という思いもあったが、内容は会計上のミスによる罰金、粉飾決算で刑務所に入った多くのケーススタディー、違反内容とポジション別の罰金額など、かなり実務的で参考になった。日本の

場合は非常に甘く、粉飾決算で罰金を受けたり刑務所に入れられるケースは少ない。日本もSESC（証券取引等監視委員会）監修の教育プログラムを取り入れたら良いのではと思う。

もう1枚は1992年、GM社をゼロから立ち上げたメンバーの創立20周年時の集合写真である。「上場によって株主には膨大な含み利益が出たのに、われわれには何もない…」と文句を言いつつも、皆楽しそう。今年で25周年を迎え、今や超優良企業に育っている。